

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.243]]]]]]](2005.5.4)

定例記者会見の開催について

調査会では、今月から定例の記者会見を行います。これは木村晋介・法律家の会共同代表のアドバイスによるもので、オウム坂本弁護士事件のとき、定例記者会見を行って逐次調査状況などを報告したことにヒントを得ました。定例記者会見ではその時点における新たなゼロ番台、1000番台リストの発表、情報の公開、見解の発表などを行います。もちろん、緊急事態が発生した場合はその都度臨時の記者会見をセットする予定です。

第1回は5月27日(金)14:00から行う予定です。場所等決まったらご連絡します。

調査会代表荒木がブログを設けました。このニュースで流せないことはブログで書いていく所存です。お時間のある方はのぞいてみてください。

<http://araki.way-nifty.com/araki/>

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.244]]]]]]](2005.5.10)

田中実さんに関する新たな情報について

本日の朝刊に田中実さんについて失踪前に本人が北朝鮮に行くと言っていたとの報道がなされています。

記事の内容からすれば警察からのリークのようなのですが、これが事実なら確かに新しい証言ということになるのでしょうか。

しかし、あらためてその前提で考えたとき、全く別の問題点が見えてきます。結局現在の、警察の捜査に依拠するやり方では拉致問題は解決できないということです。

警察は「法と証拠」の原則に基づいてやっているから、怪しい事件だとは思っていたが、証拠が固められなかったのが拉致と認めてこなかったということなのでしょう。しかし、この事件は平成9年1月号の月刊『文藝春秋』に記事が出た時点から極めて拉致の疑いの濃い事件でした。それが、救う会兵庫の長瀬代表、調査会岡田理事らの関係者に対する告発などによってやっと警察が重い腰を上げ、8年余り経ってやっと拉致と正式に認めたということです。

平成14年3月に有本恵子さんの拉致認定がされたときも、そもそも有本さんが拉致されていることが分かった発端である手紙を出した石岡亨さん、その手紙に書かれていた松木薫さんについては政府は拉致認定をしませんでした。この2人については北朝鮮が「死亡」と発表してからやっと拉致認定に至ったのです。

つまり、今のシステムでいけば、結局どんなに拉致の疑いが濃厚でも、それを政府が認めるのは本当に氷山の一角で、しかも極めて長い時間がかかるということになります。そして、例外を除いて政府は、拉致認定しない限り北朝鮮に安否確認すらしません。例えば前述の『文藝春秋』が出てから今日までの間に、田中実さんに危害が加えられたりしていたら、誰が責任をとるのでしょうか。警察庁長官でしょうか、あるいは兵庫県警本部長でしょうか。

国家の責任（それは国民全体の責任でもありますが）でやらなければならないことは拉致を認定することではなく、拉致被害者を救うことです。拉致認定というのは救出に至るアプローチのうちの一つに過ぎません。その根本は政治家も、官僚も、マスコミも、国民も絶対に忘れてはならないと思います。（荒木和博）

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.245]]]]]]](2005.5.12)

法律家の会が特定失踪者問題で米子を現地調査団派遣

法律家の会（拉致問題に取り組む法律家の会）が、来たる5月14日～15日、特定失踪者の集中地域の一つでもある鳥取県米子市を中心とした現地調査を行う「拉致問題米子現地調査団」を派遣します。

会員弁護士の他、調査会役員や参加呼びかけに応じた一般の参加者も含め約20数名が参加。また特定失踪者のご家族も参加の予定（参加募集はすでに締切られています）。

大まかな日程は以下の通り（下記日程においてマスコミ取材可能です）。

5月14日（土）

12：30頃～

境港夢みなとタワー内レストラン「ル・ミストラル」で昼食
及び簡単な団結式

13：30（境港・松本京子さん失踪現場調査）

15：00（皆生・古都瑞子さん失踪現場調査）

5月15日（日）

9：30 ホテル発

（大山登山口・広田公一さん失踪現場調査）

昼食

米子空港

なお調査団は全て貸切バスでの移動です。交通事情などの影響で、多少上記時間は前後する可能性があります。取材されるマスコミの方はご留意下さい。

お問合せ

妹原常務理事 090 - 4697 - 6197

杉野常務理事 090 - 4061 - 8722

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.246]]]]]](2005.5.13)

「責任」について

荒木和博

昨日の曾我さんの講演が関心を集めています。私たちとしては目撃したとの日本人らしき人物の問題にも強い関心をもっており、今後何らかの対応をしていこうと思っています。

それはさておき、私は曾我さんのこととなると思い出すのが平成 14 年 12 月 18 日、帰国 2 ヶ月後に 5 人が初めて一同に会したときのことです。あのとき、ちょうど拙著『拉致救出運動の 2000 日』ができたばかりで、新潟のホテルに送ってもらい、5 人に配りました。

そこで、渡すときに気付いたのが、この 2000 日の記録の中で曾我さんのことは一番最後のところにしか出てこないということでした。「佐渡で看護婦さんがいなくなっているんだ」という話は 9.17 以前から新潟の小島さん（元救う会全国協議会会長代行）に聞いていましたし、9.17 の 3 ヶ月前に佐渡で地元の清野県議（当時）らが中心になって開催された集会の折にも「このあたりでいなくなったらしい」とは聞いていました。ただ、新潟県警は拉致ではないとみているらしいとのことで、佐渡の場合、状況は曾我さんよりも大沢孝司さんの方が怪しかったということもあり、自分自身何も手をつけようとしませんでした。

そのことに、本を渡す段になって気がつき、曾我さんに謝りました。もちろん、自分が拉致だと思っていたところで、どれだけのことができたか分かりませんが、少なくとも運動をやってきた者としての責任はあると、今でも思っています。

このとき気付いたのは、曾我さんの拉致が分かってから、国の機関、警察でも、内閣でも、だれも責任をとっていないということでした。24 年間拉致に気付かなかったことにはどこかに責任があるはずではないのか、逆に言えばこの国には拉致された人が誰なのか、調べる機関がないのではないのか。その思いが年明けの 1 月 10 日に特定失踪者問題調査会設立へとつながりました（12 月 18 日の時点では正直なところ特定失踪者問題調査会はまだ影も形もありませんでした）。

曾我さんの場合、帰国から家族を取り返すまでの一連の騒ぎの中で、24 年間放置されたことの責任は誰も（私も）とっていません。JR の事故は、ある意味責任が一目瞭然だから、あれだけ問題になりますが、拉致問題はそれが分かりにくいのと、そこを突き詰めるとあまりにも大きな問題であるためにかえって責任問題が見過されているように思います。

田中実さんの認定は一步前進です。しかし同時に、認定に 27 年かかったことの責任も問われるべきです。また、それ以上に、今でも拉致された状態が続いていることについて

の責任問題もあることは忘れてはなりません。認定に至る捜査は警察の責任でも、警察には拉致被害者を救出する能力はないのですから、それはもっと上、政府、総理の責任ということになります。

拉致が放置されてきたのは、ある意味では国民全体の責任でもあり、責任の問い方を誤れば、現在真剣に取り組んでいる人の動きを止めることにもなりかねません。その意味では個人を苛めて憂さ晴しをしたりするものであってならず、あくまで一刻も早い全被害者の救出が最優先ですが、「誰が拉致被害者を見つけることに責任を持つのか」「誰が拉致被害者を救出することに責任を持つのか」という、職務上の責任関係はもっと明確にされるべきだと思います。

[[[[[[[[調査会ニュース Vol.247]]]]]]](2005.5.18)

非公開の失踪者 1 名の安否確認

昨日、ご家族から連絡があり、特定失踪者リストに非公開で入っている男性（約 30 年前に都内で失踪）が 5 月 8 日に都内で亡くなっていたことが分かったとの連絡がありました。ご本人は拉致とは関係なく、自らの意志による失踪で、作業員等の仕事をしていたようです。ご家族からすれば、30 年間探していたご家族の消息が分かったときには、その直前に亡くなっていたとのことで、何とも申し上げる言葉がありません。せめてご家族に一言連絡をとっていただければと、残念です。

これにより、拉致以外で消息が明らかになったのは 12 人（うち死亡 2 人）となりました。

定例記者会見のお知らせ

すでにお知らせしていますが、今後 1 カ月に 1 回の定例記者会見を行い、その時点での調査の進捗状況についてのご報告、新たなリストの公開等を行います。5 月は 27 日金曜、14:00 より飯田橋の家族会事務所にて行います。よろしくお願ひします。なお、記者会見は特別な事項があれば臨時にも行う予定です。

[調査会 NEWS 248] (17.5.19) 安否確認者数・参院拉致特

安否の確認された人の数について

前のニュースで安否の確認された人の数を合計 12 人と書きましたが、再確認したところ、合計 14 人であることが分かりました。お詫びして訂正します。2 人の差は非公開で安否の確認された人をカウントしていなかったことによるものです。

確認された失踪者

公開 5 人(うち死亡 1 人)・非公開 9 人(うち死亡 1 人) 合計 14 人(うち死亡 2 人)

参議院拉致問題特別委員会で参考人陳述

調査会代表の荒木が 5 月 23 日(月) 13:00 より行われる参議院拉致特別委員会に参考人として出席し、意見陳述を行います。同時に横田滋家族会代表・早紀江夫人と 3 人での意見陳述です。拉致認定の問題等、捜索ならびに救出の責任の所在について陳述を行う予定です。

[調査会 NEWS 249] (17.5.20) 安否確認者数・参院拉致特委延期

参議院拉致問題特別委員会での参考人陳述延期

前回お知らせした参議院拉致特委での荒木の陳述は国会が郵政民営化関連法案をめぐり混乱し、委員会審議ストップという状況になったため延期になりました（横田さん夫妻ら他の人も同様）。

戦略情報研究所のホームページがリニューアル

戦略情報研究所のホームページが改装になりました。ぜひご覧下さい。なお戦略情報研究所では会員を募集しております。詳しくはホームページをご覧下さい。

<http://www.senryaku-jouhou.jp>

[調査会 NEWS 250] (17.5.25) 定例会見

定例記者会見のお知らせ

すでにお知らせしておりますが、下記の通り定例記者会見を行います。報道関係各位には何とぞよろしくお願ひ申し上げます。

日 時 5月27日(金) 14:00 ~

場 所 家族会事務所(東京都千代田区飯田橋 3-7-12 松野ビル5 F)

出席者 調査会役員

内 容 ゼロ番台リスト追加発表(5人程度)

古川了子さんの拉致認定を求める訴訟についての報告

その他活動の進捗状況及び今後の活動についての報告

今回は1000番台リストの発表予定はありません。

ゼロ番台リストの失踪者の写真の撮影及びリストの配付は調査会事務所で10:30頃から行います。ただし報道については記者会見開始後にお願ひ致します。

[調査会 NEWS 251](17.5.27) 13 次 0 番台リスト

第 13 次 0 番台リスト

以下は本日 2 時から記者会見で発表する内容です。報道は記者会見開始までお控え下さいますようお願い申し上げます。

なお、本日は曾我ひとみさんの証言などのニュースも流れています。調査会にはこれについて直接の新情報はありますが、関連して今後の情報収集及び公開についてお話しする予定です。

(以下敬称略)

中塚 節子 (なかつか せつこ) (当時 17 歳)

生年月日 昭和 20(1945)年 6 月 5 日

失踪年月日 昭和 37(1962)年 6 月 16 日

性別 女

当時の身分 印刷会社勤務

当時の居住地 東京都文京区

失踪場所 東京都文京区の会社の近く

失踪当時の状況 仕事を終えて「ちょっと出かけてくる」と同僚の男性と小銭を持ってサンダル履きで出かけたまま行方不明。おやつでも買いに出た感じだったという。

石井 久広 (いしい ひさひろ) (当時 29 歳)

生年月日 昭和 19 (1944) 年 9 月 29 日

失踪年月日 昭和 49(1974)年 5 月 1 日か 2 日

性別 男

当時の身分 化粧品、雑貨販売店経営

当時の居住地 埼玉県川口市

失踪場所 埼玉県川口市の店舗兼自宅から

失踪当時の状況 化粧品店を経営しており、多額の借金を抱えてしまっていた。父親などが金を用意して経営を立て直す方向で話をすすめ、母親も店の経営を手伝っていた。本人の努力しだいで十分解決方法もある状態であったが、突然 100 万以上の経営資金を持ったまま自家用車ごと行方不明となった。当時、遊び方が派手になっており、マージャンやバーなどで、複数の朝鮮系?の方と一緒に居るところを従妹が目撃している(言葉からそう思ったとのこと)。店の隣もパチンコ屋だった。失踪後一度も免許証の更新をしていない。

石川 和歌男(いしかわ わかお)(当時 27 歳)

生年月日 昭和 22 (1947) 年 9 月 19 日

失踪年月日 昭和 49 (1974) 年 12 月 6 日
性別 男
当時の身分 会社員
当時の居住地 東京都秋川市
失踪場所 八王子市
失踪当時の状況 失踪当日、東京都八王子市の料理屋で行われた職場の忘年会の幹事をしていた。終わったあとに皆を車で送りそのまま車ごと行方不明。最後に目撃されているのは八王子市中野町。5日後の12月11日姉の所へ連絡があり、警察に届ける。

坂本 秀興(さかもと ひでおき)(当時 27 歳)

生年月日 昭和 36 (1961) 年 7 月 14 日
失踪年月日 平成元(1989)年 6 月 22 日
性別 男
当時の身分 会社員 (研究開発部門 ?)
当時の居住地 東京都世田谷区の会社寮
失踪場所 東京都港区新橋
失踪当時の状況 仕事上の書類等を提出して午後 5 時 40 分に退社後、銀行で預金 10 万円を引き出して行方不明。25 日に出張で愛媛県の新居浜工場に出勤する予定だったが出勤していないとの連絡で判明した。寮の部屋には運転免許証や保険証、旅行バック、スキー用品、衣料品等が残っていた。失踪の約 1 ヶ月前、岡山県倉敷市の実家に帰省したとき「出勤時に二人の女性に会社の玄関まで後をつけられたことあった」と言っていた。その後、出張帰りに倉敷に帰省した際に「僕は岡山には帰らん」と一言言った言葉が最後となった。無言電話はよくあるが対応に出るとすぐ切れるため、いたずらかどうか判断できない。

浜崎 真嗣 (はまざき まさつぐ) (当時 25 歳)

生年月日 昭和 49(1974)年 8 月 2 日
失踪年月日 平成 12(2000)年 1 月 6 日
性別 男
当時の身分 会社員(業務用ビデオの設計)
当時の居住地 東京都日野市の会社独身寮
失踪場所 東京都日野市の会社寮
失踪当時の状況 失踪当日は会社の新年の始業日。午前 6 時から 7 時にかけて、東京駅の ATM で 3 万円、続いて午後 1 時半ごろ北海道の北洋銀行函館中央支店で普通預金口座より 12 万円を引き出した(定期預金には一切手をつけていない)。当日の朝刊は部屋にあり、布団は敷きっぱなしの状態。食べかけのパンが残っていた。PHS は置きっぱなしで、書置きもなかった。ごく普通の服装で出かけ、自転車も置いたまま。職場の

机はすぐにでも仕事が始められるような状態になっていた。失踪直後に航空会社に飛行機に搭乗した形跡がないかを調べてもらったものの記録がはっきりしないとのことであった。

[調査会 NEWS 252](17.5.30) 13 次 0 番台リストの訂正

第 13 次 0 番台リストの訂正

27 日の記者会見で発表した 0 番台リストの中で以下の間違いがあったことが分かりました。お詫びして訂正します。

(1) 中塚節子さんの失踪時期

誤：昭和 37(1962)年 6 月 16 日

正：昭和 38(1963)年 6 月 16 日

(2) 石井久広さんの名前

誤：久広

正：久宏

「正論」に岡田理事の論文掲載

「正論」7 月号に岡田和典調査会理事の論文「拉致被害者認定の奇々怪々と新たな拉致未遂事件」が掲載されています。ご一読下さい。